

169 オリーブ山での説教(5)



マタイによる福音書 24 : 29~44

マルコ 13 : 24~37、ルカ 12 : 39~40、17 : 26~30、34~35、21 : 25~33

・・・・・・前回に続き、ニサンの月の12日(火曜日)の出来事である・・・・・・

▶**人の子**が来る (マタイによる福音書 24 : 29~31)

——大苦難(患難)時代の最期の出来事である——

29「**その苦難の日々の後、たちまち**／**太陽は暗くなり、**／**月は光を放たず、**／**星は空から落ち、**／**天体は揺り動かされる。**

→ルカによる福音書 21 : 25~26

「それから、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。

→「太陽は暗くなり、月は光を放たず」の関連聖句

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 7 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K イザヤ書	13:10 天のもろもろの星とその星座は光を放たず／太陽は昇っても闇に閉ざされ／月も光を輝かさない。	
K ヨエル書	2:10 その前に、地はおののき、天は震える。太陽も月も暗くなり、星も光を失う。	
K ヨエル書	3:4 主の日、大いなる恐るべき日が来る前に／太陽は闇に、月は血に変わる。	
K ヨエル書	4:15 太陽も月も暗くなり、星もその光を失う。	
S マルコによる福音書	13:24 「それらの日には、このような苦難の後、／太陽は暗くなり、／月は光を放たず、	
S 使徒言行録	2:20 主の偉大な輝かしい日が来る前に、／太陽は暗くなり、／月は血のように赤くなる。	
S ヨハネの黙示録	6:12 また、見ていると、小羊が第六の封印を開いた。そのとき、大地震が起きて、太陽は毛の粗い布地のようになり、月は全体が血のようになって、	

30 **そのとき、人の子** (→イエス・キリスト) **の徴** (→シャカイナグローリー) **が天に現れる。そして、そのとき** (→この時点で、キリスト信者は携挙されて、地上にはいない)、(携挙されずに、残っている) **地上のすべての民族** (→未信者) **は** (このような世界各地に起こった災いで) **悲しみ、人の子が大いなる力と栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見る。**

→シャカイナグローリー (→神の臨在に伴う栄光=「シャカイナ」はヘブライ語で「シャカン(隣人の間に住む)」+「グローリー」は英語で「栄光」とは、神の臨在がある現象となって現れたもので、その具体的な現れとしては、光、火、煙、雲、雷、雹、角笛の音などがあります。

→「雲の柱と火の柱」(出エジプト 13 : 21~22、民数記 14 : 14、ネヘミヤ記 9 : 12、19)

→出エジプト記 13 : 21~22

主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。昼は雲の柱が、夜は火の柱が、民の先頭を離れることはなかった。

→民数記 14 : 14

この地方に住む者に伝えます。彼らは、主よ、あなたがこの民のただ中におられ、主よ、あなたが目の当たりに現れられること、また、あなたの雲が民の上であり、あなたが、昼は雲の柱、夜は火の柱のうちに

あつて先頭に進まれることを聞いています。

→ネヘミヤ記 9 : 12

昼は雲の柱、夜は火の柱をもって／わたしたちの先祖を導き／その進み行く道を照らされた。

→ネヘミヤ記 9 : 19

まことに憐れみ深いあなたは／彼らを荒野野に見捨てることはなさらなかった。昼は雲の柱を取り去ることなく行く手を示し／夜は火の柱を取り去ることなく／行く道を照らされた。

→「天の雲に乗って来る」の関連聖句

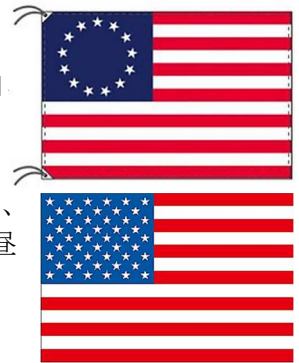
タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 3 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K ダニエル書	7:13 夜の幻をなお見ていると、／見よ、「人の子」のような者が天の雲に乗り／「日の老いたる者」の前に来て、そのもとに進み	
S マタイによる福音書	26:64 イエスは言われた。「それは、あなたが言ったことです。しかし、わたしは言うておく。あなたたちはやがて、／人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に乗って来るのを見る。」	
S マルコによる福音書	14:62 イエスは言われた。「そうです。あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、／天の雲に囲まれて来るのを見る。」	

【一言】アメリカの国旗(星条旗 the Stars and Stripes)

- ・星：独立時の州の数は 13 個（上）、現在の州の数 50（配置は 1960 年制定）
- ・ストライプ：白 6 と赤 7 の 13 本、独立当時の州の数で、聖書にある「雲の柱」「火の柱」に由来する。

→出エジプト記 13 : 21

主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱（→シャカイナグローリー）をもって導き、夜は火の柱（→シャカイナグローリー）をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。



31 **人の子は、大きなラッパの音を合図にその天使たちを遣わす。天使たちは、①天の果てから②(地の)果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。**

→マルコによる福音書 13 : 27

そのとき、人の子は天使たちを遣わし、②地の果てから①天の果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」

→イスラエル（ユダヤの民）が約束の地に集められるという預言

生きているユダヤ人と復活したユダヤ人とがともにメシア的王国に住むという預言です。

①天の果てからは、旧約時代に生き、復活した聖徒たちが集められる。

②(地の)果てからは、大苦難（患難）時代の迫害を生き延びた世界各地のユダヤ人たちが集められる。

→イスラエルの回復に関する旧約聖書の預言（イザヤ書 27:12~13）

その日が来ると／ユーフラテスの流れからエジプトの大河まで／主は穂を打つように打たれる。しかし、イスラエルの人々よ／あなたたちは、ひとりひとり拾い集められる。その日が来ると、大きな角笛が吹き鳴らされ／アッシリアの地に失われて行った者も／エジプトの地に追いやられた者も来て／聖なる山、エルサレムで主にひれ伏す。



出典(図): ウィキペディア「アッシリア」

▶いちじくの木の子の教え (マタイによる福音書 24 : 32~35)

32 「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる。

→枯渇している時(21 : 19)、苦難の時、つまり冬の時代から、夏は復興した御国(王国)の時代(再臨)を象徴している。

33 それと同じように、あなたがたは、これらすべてのこと (→24 : 4~28=大苦難[患難]時代に起こること)を見たなら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。34 はっきり言っておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。 35 天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

▶目を覚ましていなさい (マタイによる福音書 24 : 36~44)

36 「(ところで→περί δε (peri de)[ギリシア語] : さて、〇〇についてですが→[例] I コリ 1 : 10 「さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します」→さて、話は変わり携挙についてですが) そ (→携挙) の日、そ (→携挙) の時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。

→N I V : But (=ところで : 「But」を文頭に置くことで、新しい話題を導く方法→「but」には内容を強調したり、話題を変えたりと、さまざまな使い方があ) about that day or hour no one knows, not even the angels in heaven, nor the Son, Some manuscripts do not have nor the Son. but only the Father.

NKJV : But of that day and hour no one knows, not even the angels of heaven, Zech. but My Father only.

37 人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。 38 洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり (→娶ったり : 妻[め]取る=妻として迎える) 嫁いだりしていた。

→ここでは、人々は何の疑いもなく日常生活を送っており、再臨前の様子を記しているのではない。

再臨は、携挙に与かることなく、地上に残された未信者に対する不信の裁きである大苦難(患難)時代

ーただし、キリスト信者は携挙で天に上げられているーの後にやって来るが、再臨前に起こる携挙はこのような日常生活を送っている時に突然やって来るのです。だから、イエスは、「目を覚ましていなさい」

(マタイ 24 : 42、25 : 13、26 : 38、マルコ 13 : 33、35、37、14 : 34、使徒 20 : 31、I コリ 16 : 13、I ペトロ 5 : 8→次頁【参考】)とキリスト信者に強く勧めておられるのです。これが携挙と再臨とで大きく異なっている点である。

39 そして、洪水が襲って来て一人残らずさらうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る (携挙の) 場合も、このようである。

40 そのとき、畑に二人の男がいれば、一人 (→信者[キリスト者]) は連れて行かれ、もう一人 (→未信者) は残される。 41 二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。

→信者(キリスト者)と未信者が分離され、信者は天に上げられる(→携挙)。しかし、未信者は地上に残され、大苦難(患難)時代ー世の終わりの苦難ーを通過(経験)することになる。

42 だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。

43 このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒が夜のいつごろやって来るかを知っていたら、目を覚ましていて、みすみす自分の家に押し入れはしないだろう。

44 だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

